

県コンクリート診断士会

きょう福井で設立総会

コンクリート診断士の資格取得者でつくる「県コンクリート診断士会」が二十六日、設立される。

コンクリート工学協会（東京）が平成十三年にスタート。現在まで全国で二千四十六人、県内では十四人が登録している。

コンクリート構造物の信頼性を保ち、いかに寿命を引き伸ばすかという社会の要請にこたえるためには、劣化の状態を正確に診断する専門的な能力が求められている」と話して

コンクリート診断士資格制度は、塩害や中性化による劣化でトンネルや高架橋などからコンクリートが剥落する事故が相次いでいることを受け、診断技術の普及と向上を目的に社団法人、日本コ

ンクリート工学協会（東京）が平成十三年にスタート。現在まで全国で二千四十六人、県内では十四人が登録している。県診断士会は、福井宇部生コンクリートの石川裕夏常務を代表に関連会社の技術者四人が発起人となり発足、二十六日に福井市の県職員会館で設立総会を開く。

石川常務は「コンクリート構造物の信頼性を保ち、いかに寿命を引き伸ばすかという社会の要請にこたえるためには、劣化の状態を正確に診断する専門的な能力が求められている」と話しており、今後、コンクリート診断士資格の普及と技術向上を図り、公共施設などの診断業務受託などを自治体に働きかけていくことにしている。